

2-7					
主題	次世代の排泄介助とは				
副題	脱 定時排泄介助				
キーワード 1	おむつセンサー	キーワード 2	個別性と軽減	研究(実践)期間	1.5ヶ月
法人名・事業所名	社福) 三幸福社会 癒しの里 南千住				
発表者(職種)	稲毛菊之助(介護主任)				
共同研究(実践)者	株式会社光洋 平池甲斐、三和株式会社 篠田素輝				
電 話	03-3803-3700	F A X	03-3803-3780		
事業所紹介	東京都荒川区にある平成20年開所のユニット型特別養護老人ホーム。 三幸福社会の理念である、ご利用者様の幸せ・ご家族様と地域にお住いの皆様の 幸せ・職員の幸せを念頭に運営を行っています。また、福祉会で10年ビジョンを 掲げ、将来を見越した環境のIT化を推進しています。				
<p>《1. 研究(実践)前の状況と課題》</p> <p>以前の状況</p> <p>ユニットケアは個別ケアだと認識しつつも、定時でトイレ誘導やおむつ交換を行う。一定期間、利用者様個々の排尿量を把握する為、多くの時間をもちいて排泄介助に入り確認を行う。排泄介助と排泄関係の記録・引継ぎ業務で、一日の勤務務時間の20%を費やす。一度に全ての利用者様の排泄介助を行い、排泄以外の介助を行う時間を圧迫する。</p> <p>課題</p> <p>現場職員だけで排尿サイクルを把握するには職員に多大な時間と労力を求めることになり、こまめな排泄介助を行っても排泄が見られない等費用対効果も極めて低い。利用者様への負担も無視できない。羞恥心に配慮を行っても介助の回数が多い事により不快感につながる可能や、休憩中に何度も介助を行い休憩や睡眠を妨げる場合がある。排泄サイクルを把握したとしても必ず予測通りになるとは限らない。日々ファミリーの状況や状態は変化している為、経験値や知識が高い職員でも変化に対応できない場合がある。</p> <p>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</p> <p>目的はオムツセンサーを活用し定時のオムツ交換・トイレ誘導を変える。仮説としてセンサーを活用し、排泄のタイミングを把握する。情報を把握できれば、トイレ誘導・おむつ交換を、個々に合わせたタイミングでケアすることができる。本当に必要なタイミングで排泄介助に入る為、スタッフの業務負担軽減ができる。オムツやパットの使用量を削減し、環境に優しいケアができる。</p> <p>《3. 具体的な取り組みの内容》</p> <p>ご利用者様に協力を頂き、対象者1名に対して利用者様が使用しているオムツにセンサーを取</p>					

り付ける。オムツセンサーの仕組み「紙オムツに内蔵されたライン（黒い線）に、クリップを装着しおむつ内の静電容量変化を検知し、パソコン・タブレットなどに通知」オムツセンサーの入手できる情報は「排尿タイミング」「排尿量」「体位の角度」

《4. 取り組みの結果》

【客観的变化】・オムツ交換回数：1日2.2回(44%)削減された。1回のオムツ交換を5分間にした場合1日11分の余剰時間が生まれる。・尿の逆戻りが多い時間：1日24分(29%)削減された。交換回数は減少し、逆戻りが多い時間も削減された。・ムダ使いしているオムツ：1日198g(44%)削減された。処理で発生するCO₂は、1年間で7.2kg削減された。

【スタッフの変化】「身体的負担軽減」・パッド内尿量がリアルタイムで表示されるため、ある程度の業務の見通し（パッド交換等）が立ちやすくなった。・トイレ誘導の空振りが減った。ランプが赤になったことで本人からの訴えはないが、ランプを見た職員が排泄介助に入ることにより、失禁の回数が減った感じがする。「精神的負担軽減」・「排尿パターンがつかめない」「定時で入っても排尿が少量しかでていない」方への介入回数が減り、負担が軽減した。「排泄ケア意識向上」・「多い、少ない」などの漠然とした尿量でなく、グラム数を測ったことで「今の時間は〇〇gか」「次の交換時は、排尿量が多いかもしれない」といった予測ができるようになった。・適切な排泄時間を協議し、排泄介助回数を減らすことができた。

《5. 考察、まとめ》

オムツセンサーを使用した事により・不要なオムツコストや清拭コストの減少・職員の心身の負担軽減・利用者様が不快感なくセンサーオムツを使用できていた。排泄サイクルを完全に個別ケアに変更でき、利用者様の心身の負担も減少できた。【たった1つを変えるだけで施設・職員・利用者様が良い方向に進めたと考えます】

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

三和株式会社作成 オムツセンサー概要資料

株式会社光洋作成 オムツセンサーモニター資料

《8. 提案と発信》

今後も癒しの里南千住ではセンサーの活用範囲を全ユニットまで広げ、さらに広い範囲で運用を検証。将来的には南千住にいらっしゃる全てのご利用者様にオムツセンサーを活用。トイレ誘導・オムツ交換の回数の適正化を実施。ご利用者様に合った時間に適切なケアが行えながらも、職員の負担を軽減できる施設を目指します。